

僕等は欲しがりだ

人物

寺家繆(27) 創建学院新宿校の生徒。

株式会社松戸屋の囑託社員

真殿剛(55) 創建学院新宿校の講師

学院生 A (27) 創建学院新宿校の生徒

学院生 B (24) 創建学院新宿校の生徒

学院生 C (23) 創建学院新宿校の生徒

男 A 株式会社松戸屋のカスタマーサ

ポートへ連絡した者。声のみ

○ 創建学院新宿校

「11:00」

創建学院新宿校全景。

総研学院新宿校のアルミ看板が太陽に光で反射している。

1

○ 同・自主室

60 平米ほどの広さ。部屋一面には、デスクがびっしりと並べられており、多くの学院生がヘッドホンをしながら目の前の PC に目を向けている。

寺家繆(27)も多くの学院生と同様、デスクに向かい合い、ヘッドホンをしながら映像授業を受講している。

映像の中では、真殿剛(55)が構造力学の授業をしている。

真殿「いいか、モールの定理を用いる場合、固定端を自由端に変更させなきゃいけない。ここ忘れちゃいけないポイント」
多くのデスクで鉛筆が走る。

2

寺家の眼に真野の授業が反射する。

真殿の声「だけれども、ピン支点とローラー
視点はそのまま変えちゃいけないというこ
とは注意しなければならぬ」

多くのデスクで電子ペンが走る。

寺家の背中は少し猫背である。

真野の声「何度も言うぞ！当たり前前のことを
忘れているような奴らは建築士になる資格
はない。基礎をしっかりと打ってないと、建
物も倒壊する。そして人が死ぬ。これはた
だの試験じゃない」

寺家の手元にあるペンが進む。

寺家、ノートを見つめる。

ノートの左半分には、映像授業で解説
されていたモールの定理の要点や演習
問題が記載されている。

右半分には、『基礎をしっかりと打って
ないと、建物も倒壊する。そして人が
死ぬ。』や『これはただの試験じゃな
い』と言った文章が殴り書きで書かれ

ている。

× × × ×

F「12:00」

自主室にチャイムが鳴り響く。

多くの学院生が席を立ち、談笑をし始める中、寺家は壁掛けの時計をじっくり見る。

多くの学院生が自主室から出ていく中、寺家は席から立ち上がらない。

壁掛けの時計が 12:05 を示す。

寺家、しばらく席に座りノートを見つめている。その後、深くため息を吐き荷物を片付けようとする。

× × × ×

コンビニ袋を持った学院生 A (27) 、

学院生 B (24) 、学院生 C (23) が談

笑しながら自主室へ入ってくる。

寺家、学院生 A・B・C の間をすり抜けながら、足早で自主室から出て行く。

自主室から退出した寺家を、不思議そうな顔をしながら目で追いかける学院生 A・B・C。

○野方コーポ

T「13:00」

野方コーポ全景。壁面が淡いピンク色で塗られている野方コーポ。寺家がコンビニおにぎりを啜えながら野方コーポの階段を上がっていく。

○同・102号室

T「14:00」

カーテンが閉まり、部屋の電気も付いていない暗い部屋。シャワーが流れる音だけが響く。

T「15:00」

暗闇の中、寺家は携帯を眺めながら、部屋の中を歩き回る。

T「16:00」

暗闇の中、ノートを見返す寺家。

「17:00」

暗闇の中、ソファベッドへ横たわり、
掛け布団を掛ける寺家。

「18:00」

ソファベッドに横たわりながら、呻き
声を上げる寺家。

「19:00」

ソファベッドの上でいびき声を書いて
いる寺家。

「20:00」

「21:00」

「22:00」

携帯からアラーム音が鳴りだす。

ソファベッドの上で目を擦りながら起
き上がる寺家。

カーテンを開け、外が暗い事を確認す
る寺家。ため息を吐きながら、頭をボ
リボリ搔く。

○都営新宿線・新宿三丁目駅・構内

「23:00」

改札前でカップルが酔いながらキスをしている様子。

寺家、カップルを気にする様子なく、改札に携帯を当てる。

× × × ×

携帯を眺めながら電車を待つ寺家。小言を唱えながら携帯を見つめている。

構内電光掲示板に視線を向ける寺家。

電光掲示板には『23:05着 馬喰横山

駅行き』と書かれている。

× × × ×

電車が駅構内から出て行く様子。

○曙橋ビルディング

「00:00」

曙橋ビルディングの全景。30Fほどの高さがあるビルの窓には灯がポツポツ灯っている。

○曙橋ビルディング 22F

「株式会社松戸屋」と書かれたオフィ
ス標識。

オフィス内には、卓ほどのデスクが
並べられており、寺家を含めた4名
が静かにして座っている。

皆頭にヘッドセットを装着し、PCを
操作している。

一度大きなため息を吐く寺家。すると
直後、大きな呼び出し音がオフィスに
響き渡る。

応対のボタンを押す寺家。

寺家「お待たせしました。こちら、カスタ
サポートでございます」

男Aの声「あの、茅町の駐車場なんですけ
ど、精算機が壊れています」

寺家「申し訳ございません。精算機の故障が
あったということで、場所は茅町〇丁目
の駐車場でお間違いないですかね？」

時計をチラッと見る寺家。時計の針は
00:02を占めず。

× × × ×

「 01:00」

寺家「はい、はい、かしこまりました」
ペン回しをしながら電話応対する寺
家。

× × × ×

「 02:00」

寺家「お電話、寺家が承りました。ありがと
うございます。はい、失礼致します」

電話を切り、ヘッドセットを外しながら、
伸びをする寺家。

時計をチラッと見る寺家。

寺家は携帯を取り出しマップ上で「飲
食店 営業中」と検索する。

× × × ×

「 03:00」

あくびをしながら目の前のPCを見つ
める寺家。

× × × ×

「 04:00」

寺家は椅子から立ち上がり、

寺家「休憩入ってきます」

× × × ×

「 05:00」

デスクの上で仮眠を取っている寺家。

× × × ×

「 06:00」

寺家「大変、申し訳ございません」

ヘッドセットを装着しながら、お辞儀をする

寺家。

× × × ×

「 07:00」

寺家「大変、申し訳ございません」

ヘッドセットを装着しながら、お辞儀をする

寺家。

× × × ×

「 08:00」

寺家「大変、申し訳ございません」

ヘッドセットを装着しながら、お辞儀をする
寺家。

× × × ×

「 09:00」

寺家は椅子から立ち上がり、
寺家「お疲れ様です」

○創建学院新宿校

「 10:00」

創建学院新宿校全景。

貧乏ゆすりをする寺家の足元。

ヘッドホンをしながら映像授業を受講
する寺家の視線の先では、

真殿「いいか、何事も手考足思だ。このスタ
ンスが未だに身に付いていない者は早くこ
の予備校から出て行った方がいい」

貧乏ゆすりが止まらない寺家の足元。

(了)

